

小動物系低身長爆乳ムスウ部女子が
寝取られ体験する話

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

絵を描くマン

小動物系低身長爆乳人オナ女子が
寝取られ体験する話

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止



えー…
なんっすか？

驚いたなあ

キミみたいなの
子があんな動画
持ち込んでねえ
来るとはねえ

でっけえ…

しかもそれが
カレシの公認
ってんだから

公認ってか…
勇二が喜ぶから
やってるだけ
だし…♡





それじゃ
早速だけどっ

このどスケベな
体好きにして
いいんだよねっ

わっ

はあ
めっちゃくちや
いい匂い

メ
デ
メ
デ

んっ♡

こね♡

ゼクッ♡

せにゅっ

ちよこらっ……
激しくすんなっ♡

がつつくな
って方がよ
無理でしょ

目の前でこんな
デカ胸ぶるんぶるん
揺らされたら♡

あっ♡

皆凄
いっ
きだ
な

早速いい画
撮れてるし
後でSNSに
上げとくか

やっ♡

身体中っ
やだっ♡





やだっ♡

んっ

ン
キ
ョ

んっ

うわゝ親子ぐらいの
齡離れたおじさんの
唾飲まされてるよ

嫌がる素振り
しといて、つま先
立ててベロチュー
だもんな

こんなの
普通の女の子じゃ
NGでしょ♡

キ
ュ
ン♡

キ
ュ
ン♡

ほゝら、
おじさんの口で
泡立てた
ヨダレだよ

喉から唾液
流しこまれてっ

マーキング
されちゃうっ♡

んんうっ

んむっ♡

ゴ

ク
ッ
ッ
ッ
ッ

ッ
ッ
ッ

ッ
ッ
ッ



!?

いっ

んっ

お口寂しいなら
こっちで……
空いてるっすよ……♡

なっ……

ユサッ

生乳えっろ……
滅っ茶苦茶
でけえ……!!

こんなん
見せびらん
挑発とかこの女





いいいまから
おじさんたちにくっつき
ちんぽ挿れられちゃうっす…♡

いへ…

おーおー

ぶるん

おーおー

ぶるん♡

気持ちよく
されちゃうけど
ごめんねーじっ♡

やあり良い
コメントだわ♡
さっそく投稿っ

とっ

こんで
ちも

おーおー♡

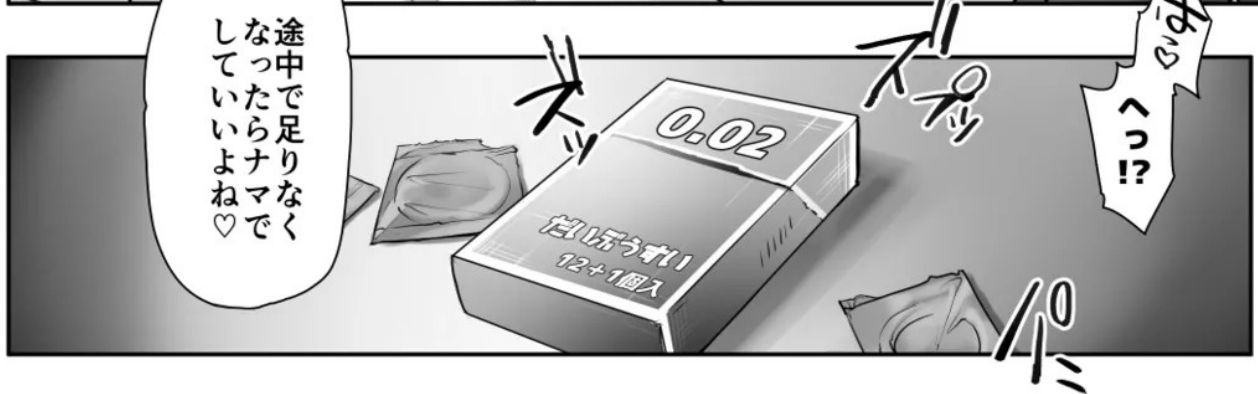
頂きまっす♡

おっ♡

おーおー

おーおー

おーおー♡











ふう………
そろそろ二周目も
半分くらいか

おわ……
まんこにゴム
持ってかれて
ますよ

まだこんな
吸い付きとは
大した名器
ですねあ♡





さっきまでと
反応が違うん
じゃない？

おっおっ
おっおっ

おっおっ
おっおっ

ふーっ♡

ふーっ♡

ふーっ♡

ふーっ♡

ふーっ♡

おっ

むしゃぶり
ついて
くるねえ

ほんと、
ちんぽ大好き

生ちんぽ
挿れられて
臭いさ
臭いさ
臭いさ♡

頭と子宮
繋がってる
みたいで♡

ほらこっちも
次挿入る
ちんぽだよ

さっきおしっこ
してきたから
綺麗にして
おいてね

へっ……♡
臭っさあ……♡

あー
ほんとに
具合良いわ
このまんこ

そんなに
お腹
ピクピク
させて♡

ど
と

パン

パン

パン

パン

パン

パン

パン

パン

パン





膣内で……っ
そのままっ♡

す……♡

す……♡

膣内で射精して
最後までっ♡

!?

……
イかせて
欲しくて
生膣内射
許しちゃ
んだ？

うゝん
それは期待に
お応え
しないとな

了解♡

その代わり
今から全員
膣内射精だぞ

はっ
はっ♡

覚悟しろよっ♡

パン

いいな？

パン

パン

パン

パン

パン

パン

んっ♡



くっっ……
女子校生に
膂内射精
最高♡

は、早く
代わってくれ
もう時間
無いんだよ

いやいや
こんな機会
二度とないぞ

決めたぞ
私あきようは
休み取る！

そりやええ

おははは





寝取られ体験 前日譚

小動物系低身長爆乳バス部女子が

原作者の「裏側ざん」先生に
特別に書き下ろして頂いた
本編の前日譚小説になります

むしろこっちが本編です……！
お楽しみ下さい！



◆前日譚◆

放課後の学園には、寂寥感が漂っていた。空っぽの校舎に響くのは、校庭で練習に励む運動部の声と、吹奏楽部が奏でる楽器の音色のみ。自分とは無関係の喧噪に、意味もなく思いを馳せながら、僅かに開いた窓から吹く冷たい風を浴びていた。と、その時。

「――勇二っ」

空虚な雰囲気さがらりと変える、色鮮やかで朗らかな声。

勇二は、その声が聞こえた方へと視線を向けた。

ぱたぱたと、軽妙な小走りで近付いてくる、一人の少女。

――彼女の名前は、及川綾。バスケット部所属の女子生徒だ。

勇二と同年年でありながら、赤いランドセルが似合う程の低身長。そしてまた、愛嬌たっぷりの童顔も彼女の特徴の一つだ。性格はやや生意気であるが、それすらも上手く使い熟して、幅広い交友関係の構築に成功している。ゆえに及川綾は、学園で人気のある美少女の一人として数えられている。

……何故か勇二は、そんな彼女とお付き合いをしている。

交際を始めてから、もうかれこれ半年以上になるだろうか。

「あたしの用事なのに、待たせて申し訳ないっす……」

「大丈夫だよ。綾のことだし、また男子に絡まれてたんでしょ」

放課後は、沢山の男子に囲まれてしまうのが及川綾の日常。

カラオケに誘われたり、休日の予定を訊かれたり。

或いは集団の熱気に隠れ、セクハラをされてしまったり――。

「何とか追い払ってきたっす。今日は特別な日っすから」

「ああ……うん。そう――だね」

特別な日。綾の言葉を反芻すると、曖昧な感情が胸に湧く。

勇二と綾は、確かに恋人同士だ。学園内からの反感や抗議の声は大きいけど、それでも幸せな日々を送っている。

けれど、普通のカップルとは違う点があった。

それは、二人揃って“寝取らせ性癖”に理解があるという事。

そして、寝取らせを実行する環境と行動力を持っていた事。

きっかけは些細な出来事に過ぎない。わざわざ出す必要もないだろう。というより、二人はきつと、そういう道を辿るように神様に仕組まれている。爛れた青春の中で愛を深め、互いを独占したい気持ちを含め、世界の誰にも負けない強固な絆を結ぶ。そんな運命を、受け入れるしかないのだ――。

「……先生はもう来てるんすか？」

「僕より先にね。ずっとこの教室で待機してるよ」

「さっすが。綾ちゃんオタクなだけあるっすねえ」

「普段の体育の授業は、あんなに厳しいのにな」

「まーそんなもんっすよ。大人の男の人なんて」

桜色の唇が緩んで、にやりと小生意気な微笑を浮かべた。

体育教師を馬鹿にしているように思えて、実は勇二を煽っている発言だ。現役の女子○生に対して、下品な肉欲を抱く教師相手に身を委ねるというのに、彼氏として制止すらしらないのかと、そう言いたいのだ。勇二の性癖も苦悩も、知ったうえで。

勇二のことを見上げる綾が、上唇をぺろりと舐めた。

「やっぱりやだ？ 今ならまだやめられるっすよ？」

綾の挑発的な尋ね方に、首を横に振ってしまふ。

それを最後の同意として捉えた綾は、勇二に背を向けた。

とても、小さな背中だ。その割には、スカート越しでも肉感が伝わる程に大きなお尻をしている。裾からぷりんと零れ落ちる太腿も非常に肉厚で、官能的な光沢を放っていた。身長を除いて、驚異的な発育を遂げた及川綾の肉体は、各種SNSへの写真投稿の影響も相まって、最近はグラビアアイドル業界からも狙われている。このままでは、彼らが喧伝するように、“次世代のオナペット天使”として数多の男達の慰み者にされてしまふ。

「——んふふ。息が荒いっすよ、勇二♡」

そうやって不安が募るほど、醜惡な興奮が昂ってしまふ。

「……………大丈夫、だから」

今回、寝取らせ性癖持ちの勇二が選択したのは——。

【同人AV出演者募集企画】に、及川綾をエントリーさせる事。

綾が言うには、同人AV界隈では有名な輪姦凌辱系ハメ撮りサークルが、特別に素人女優を募集しているらしいのだ。応募するには、自己アピール動画を送る必要があるらしく、勇二に与えられたのは、撮影のためのカメラマン役。

それ以上でも以下でもない。綾の彼氏であるというのに。

「……………」

扉の向こう側には、撮影協力者である体育教師が待っている。

勇二は意を決し、空き教室の扉を開いた——。



湿った匂いに満たされた空き教室。

机も椅子も隅に片付けられており、整然としていた。

その中心。ぽつりと置かれた一つの椅子に、綾は座っている。

着席しているだけの姿でさえ、挑発的で艶めかしい。

平均を大きく下回る小さな背丈であるというのに、胸部にて佇むのは凄まじい大きさの乳房。爆乳。 “低身長爆乳”という

矛盾を孕んだ淫猥な外見は、雄の性欲を確実に刺激する。

少し離れた場所でカメラを構えている勇二の心臓は、不規則な鼓動を刻んでいた。とくんとくん。撮影中である事を示す、赤いランプが灯ったカメラが記録しているのは、愛しの及川綾だけではない。小さな彼女の背後で、ゆっくりと動き出した——大柄で筋肉質な体育教師の姿も撮影していた。

それから間もなくして、短い情事が幕を開ける。

『——まずはカメラに向かって簡単な自己紹介をしろ』

『うっす……及川綾っす。今年高〇生になったばかりで——バスケ部所属っす。色々と頑張るので、よろしくお願いします♡』

綾は、引き攣った笑みを浮かべていた。

期待と不安が入り混じった表情は、すぐに崩れる。

腹から絞り出したような低い喘ぎ声と共に、綾が震えた。

綾の背後に陣取った体育教師が、その浅黒い手で彼女の胸を驚掴んだのだ。太い指が乳肉に沈み込み、ゆったりと揉みこまれてしまっている。次第にブラウスには皺が増え、綾の顔にも汗が目立ち始める。落ち着いていたはずの呼吸も乱れていく。

『んっ♡ んふう♡ んやあ、ああん……♡』

『随分と我儘な乳房をしてやがるな。こんなデカ乳をぶら下げておいてバスケ部とか。馬鹿みてえに揺れちまうだろ?』

『はあ……♡ そんな事、ないっす、からあ♡』

体育教師の屈強な手つきによる乳揉みは、暫く続いた。勇二の目の前で——及川綾が、蕩けさせられていく。

成人男性の大きな手ですら掴み切れぬ、豊満な乳房。

やがて、肉厚な乳肉を下から支えるようにして持ち上げられ、晒された。勇二に、そして動画を審査する同人AVサークル主に、*“及川綾のデカ乳”* 見せつけているのだ。水風船で遊ぶように、たぶたと弾まされたりもしていた。

そんな状態で投げかけられる質問は、ただ一つ——。

『何カップあるんだよ。綾ちゃんのおっぱいは』

端的な問いを受け、綾は背筋を反らした。

自ら、自慢の爆乳を強調しながら、舌なめずりをして——。

『105 cmの——Kカップ、っす……♡♡』

及川綾を知らぬ者からすれば、にわかには信じ難い回答であろう。だが、事実なのだ。豊胸手術に手を出したグラビアアイドルを凌駕する規格外の爆乳は、現実としてそこに存在している。綾の口からカップ数を聞き出した体育教師は、鼻息を荒げた。それから眉を顰め唇を歪めた発情面となり、背中を丸める。

同時に、綾の顎を摘み、持ち上げて——。
お姫様を愛でるような丁寧さで、濃厚な口付けを落とした。

『及川あ……んぶちゅっ……ぶちゅっ、んぶう……』

『むちゅう♡ んやあ♡ 舌入れちゃ、らめっすよ……♡』

『黙れクソチビデカ乳女。先生にキスされて嬉しい癖に』

『そんな訳ないでしょ……♡ 勇二に見られてるのに……♡』

汚らしいキスを受け入れる綾が、ちらりと勇二を見詰める。

そのまま、卑しい舌使いでペロペロとリップ音を奏でた。

勇二に見せつけているのだ。彼との、浮気ペロチューを。

『全く。相変わらずクソ生意気な生徒だなあ、及川は』

体育教師はぶつきらばうに言って、綾の口内に唾を吐いた。

痰壺扱いされても尚、にたにたと嬉しそうな様子を貫く綾。

勇二は、焦燥感に駆り立てられていた。目の前で繰り広げられる淫らな行為の熱量は高まりつつあり、勇二との間に明確な断絶が生じていく。大切な彼女がすぐそこにいるのに、手を伸ばせない。届かない。もう二度と、取り戻せなくなるかも——。

けれど、臆病な自分の存在すら、興奮材料となってしまう。

数秒後。体育教師の指が——綾の乳房の付け根を撫でた。

重たい乳房により常に引っ張られていて、凝りが溜まりやすい部位であるそこを、執拗に撫で回したり。ぐにゅりと揉み潰したり。豊富な女性経験に裏付けされた熟練の手付きで責め立てられているのは、及川綾のスペンス乳腺だ。第二のクリトリ

スとも呼ばれる、敏感な性感帯。日常生活で蓄積された疲れを

労われるのと同時に、重厚な快楽を与えられてしまえば、綾はもう、勇二の存在など忘れて従順な牝奴隷に堕ちてしまう。

『ぶぎゅっ……♡ んひゅう♡ あ、う♡ ん♡ つほお♡』

太い指でスペンス乳腺を刺激され、びくびくと震える綾。

背筋を反らし、両膝を内向きにして、快楽を堪能している。

然し、気持ち良くなっているだけでは、今回の撮影の目的は果たせない。同人AVに出演して、寝取らせ性癖持ちの勇二を喜ばせるべく、綾はカメラ視線となった——。

『ほらあ♡ これ見てる人たちも、どーせあたしのおっぱいを揉んでみたいって思ってるんでしょ♡ んふふ♡ あたしを選んでくれたら、好きに触っていいっすから♡ ねっ……♡♡』

名も知らぬ連中を、艶っぽい台詞で煽った後。

綾は、一際大きな喘ぎ声を漏らして、大胆に仰け反った。

自然と開かれた両脚の間から、ぷしゅっ、と潮を噴く。

それでも最後の瞬間まで、綾の視線は勇二に向けられていた。

『おっ♡ おおい♡ イクっす♡ んあらめらめっ♡♡』

びくびくびくッ——びくんッ、びくんッ——と。

綾は、体育教師の腕の中で、爆乳を責められ絶頂に達した。不可視の触手に絡みつかれているかのように豊満な肉体を踊らせ、

ひたすらに啼き続ける。綾がイキまくっている最中も、スペンス乳腺への刺激は継続されていた。それどころか、ブラウス越しに乳首も引っ搔かれていた。快楽が快楽で塗り潰され、絶頂の追撃に遭い、綾は唇を窄めながら虚空に向かい咆哮を上げた。

『ふぎゅおっ♡ お——っ♡ んおーッ……ほう♡♡』

身を縮こませて余韻に浸る綾の——頬骨が掴まれた。

そのまま前を向かされる。蕩けた牝顔が、晒される。

自分の意思ではなく、強制的にカメラを意識させられていた。

そして綾は、ぷるぷると震える両手で自らの爆乳を掴み、持ち上げた。同時に両脚を開脚する。己の、牝としての弱点を剥き出しにしながら、にたっ♡と生意気な笑顔を作った。

『——こんな感じで、あたしのドスケベすぎる身体を自由にしていーっすから……♡ Kカップおっぱいを揉みまくって♡

彼氏持ちの現役女子○生のちびまんこに♡ 大人ちゃんぽ突っ込んで腰振っていーっすからあ♡ ぜひ、この及川綾ちゃんを選んでくださいっす……♡♡ んふふっ……♡♡』

綾のウインクを合図に、勇二は録画終了のボタンを押した。

……空き教室には、熱気が籠っている。

このままでは終われぬといった、危うい空気が蔓延っていた。やがて、体育教師から「及川を少し借りてもいいか」と尋ねら

れた。未だに彼の手は、綾の身体のあちこちを弄り続けている。

勇二は、逡巡してから……渋々、頷いた。

勿論、綾にはアイコンタクトで確認をとってある。

綾もまた、体育教師と同じで物足りぬ顔をしていた。

すぐに二人は淫蕩的な世界に没入していき、火照った肉体を重ねた。巨漢である体育教師に背後から覆い被され、豊艶たるKカップ爆乳をたぽたぽ揺らしながら犯される及川綾の痴態。勇二に助けを求めつつも、快楽に悦びイキ震えまくる——。

勇二はカメラを再起動させ、念の為、その様子も撮影した。結局、応募用の動画は結構なボリュームとなってしまった。

——それから数日後。【当選】のお知らせが届いた。

勇二の恋人が、素性の知れぬ素人男優の食い物にされてしまう旨が、無機質な文面で綴られていた。

こうして及川綾は、同人AVに出演する事となった。



あとがき

Emanです。
漫画版「寝取られ体験」お楽しみ頂けたでしょうか。
本編は原作者の裏側ざん先生にご協力頂きながら支援サイトで連載させて頂いておりました。

最初はずっと短い漫画の予定だったのですが、
やりたいことが多すぎてプロットを盛ってしまったのと
僕の筆の遅さゆえに半年もの連載となりました。

終わってみると原作の魅力に
近づけるためにもっとできたことが
あとからあとから見つかる始末……

普段はCG集ばかり作っていますが
少し間をあけてまた漫画は
描いていきたいと思いますので、
今後ともよろしくお願い致します。

裏側ざん先生コメント

初めまして、裏側ざんです。
一応原作者です。

ノクターンノベルズに投稿した時には、まさかこうして
「薄い本化」して頂けるなんて
夢にも思っていませんでしたので、嬉しさ大爆発です。

やはり漫画になると、及川綾さんと竿役さんとの
体格差が際立ってシコミ鬼増しですね。

改めまして、Eman先生、そしてご購入頂いた皆様、
本当にありがとうございます！